

1 本年度の学校教育目標

ふるさとを愛し、自ら学び、未来に挑戦する建屋っ子の育成

2 本年度の学校重点目標

めざす子ども像(地域の未来に貢献できる子)	○学ぶことの大切さ、楽しさを知り、自ら学ぶ子(知) ○自分の思いを伝え、人の思いに耳を傾け、よりよく生きようとする子(徳) ○自分の心と身体を知り、健全に生きようとする子(体)
めざす学校像(児童・教職員・保護者・地域がつながる学校)	○子どもの夢と志の実現を支える学校 ○一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ○一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ○保護者や地域と共に歩む信頼される学校
めざす教師像(地域の担い手と地域を育てる教師)	○使命感、教育愛に満ち、児童の良さや可能性をのびず教職員 ○人権感覚に優れ、子どもとともに学ぶ教職員 ○自らの資質能力と実践的指導力の向上を図り、児童・保護者・地域から信頼される教職員
期待する家庭像(地域の方とともに地域の担い手を育てる家庭)	○親子で目標を決め、目標に向かって努力する家庭 ○家族同士で「あいさつ」を交わし合う家庭 ○基本的な生活習慣を身につける家庭 ○学校や地域の行事に進んで参加・参画する家庭
期待する地域像(児童と学校とつながる地域)	○学校の重点目標を共有し、共に進める地域 ○子どもの安全・成長を見守る地域 ○地域行事に子どもたちが参加・参画する地域 ○学校教育・家庭教育を支える地域 ○学び続ける大人がいる地域

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営・協働体制	◆コミュニティ・スクール(地域とともにある学校) ◆小規模特認	A	○学校運営協議会委員・PTAボランティアの参画による教育活動が推進できた。(運動会や外国語活動、農業体験、ふるさと学習など) ○学校運営協議会を定期開催(4回)し、教育活動に対し広く意見を聴取できた。(視察受け入れ1件) ○校区自治協との連携によるE-parkを開催し、市内の未就学児童・保護者の学びの場づくりを進めた。 ○他県および本県の教育関係者による視察を受け入れ、小規模特認校制度について広報できた。 ○新聞報道やケーブル放送、募集ちらし等で特色ある教育活動についてPRできた。養父市と連携し、芸能人による講演会を3年ぶりに開催できた。 ※保護者アンケート：本項目に対する肯定的評価：97%以上
	◆保護者・地域・関係機関との連携 ◆校種間連携(幼小、小中の連携、小中一貫)	A	○学校日より(月2回)や自治協日より(月1回)、ホームページ(週1回更新)等を通して家庭や地域に本校の特色ある教育活動を周知できた。 ○「そうあんくん新聞」や「お手伝い大作戦」、「Challenge100」の取組を通して、児童の主体性を促すことができた。 ○「たきのやっ子応援団」の再募集(チラシ配布等)を行い、新たな人材の発掘・活用ができた。 ○オープンスクール(年3回)やオープンエレメンタリースクール(5歳児対象)を開催し、400名を超える参観があった。 ※保護者アンケート：家庭との連携、オープンスクールの実施に肯定的評価：100% ※子ども園へのALT派遣、6年生中学校登校、小中一貫教育部会での共通実践(ノート指導)
学習指導・生活指導・健康安全	◆確かな学力(知)	B	○兵庫型学習システム推進員(2名)の活用により、複式の良さと単式の良さを生かした指導が実践できた。 ※教科担任制、複式指導に対する肯定的評価(児童・保護者・教職員アンケート) ○タブレット端末を活用し、児童の主体的な学びと家庭学習の充実につなげた。(表現の地図、ダンス動画、学習アプリ等) ○学習タイム(がんばりタイム、たきのやタイム、お話広場)の充実を図り、基礎基本の定着と読書活動の充実を図ることができた。 ▲主体的な学び、基礎学力の定着、聞く姿勢に課題(保護者・教職員アンケート)
	◆豊かな心(徳) ◆人権、道徳、多文化共生教育	A	○県立ピッコロ劇団の指導による「ふるさとたきのや物語」を上演し、参観者から高い評価を得た。 ○いじめアンケートや生活アンケート、児童観察を通して、いじめや問題行動の早期発見・対応に努めた。 ○不登校傾向の児童や保護者、関係機関と密に連携(電話連絡・家庭訪問)し、良好な関係を築いた。 ○ALTによるET(Enjoy Takinoya)タイムや掲示板、外国語活動を通して、多文化理解が進んだ。 ※学校生活アンケート「学校が楽しい」：97.5%、▲「自分の良い所が言える」：63.2% ※保護者アンケート「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいるか」：肯定的意見97.4%
課題教育	◆健やかな体(体) ◆食育・健康・安全 ◆防災教育	B	○栄養教諭を招聘した食育指導や食育だより・保健だよりを用いた啓発活動を通して、児童や保護者の健康に対する意識を高めることができた。 ○家庭や学校医、関係機関との連携を密に図り、感染症の拡大防止と早期対応に努めた。 ○「Challenge100」「サーキット運動」を通して休み時間や放課後、家庭で運動に親しむ児童が増えた。 ※新体力テストの結果分析に基づく系統的な体力向上実践 ▲粘り強く取り組む姿勢、たくましく挑戦する態度
	◆キャリア教育 ◆特別支援教育 ◆情報教育	A	○キャリア学習会(年2回)を通して生き方を見つめ直したり、より良い生き方について考えたりする児童が増えた。 ○エリアコーディネーター(和田山特別支援学校)や特別支援教育専門員(但馬教育事務所)との連携により、教職員の児童理解が進んだ。また特別支援教育に関する校内研修が充実した。 ○学校が独自に作成した「表現の地図(外国語学習用)」の活用機会が増えた。
教職員	◆教職員の育成 ◆教職員の協働体制	A	○「懲戒処分の指針」等を用いた服務研修、事例研修を通してコンプライアンスの向上に努めた。 ○ミドルリーダーを中心としたOJT、校内研修により、実践的指導力の向上が図られている。 ※教職員アンケート「教職員研修の充実」：肯定的回答100% ※保護者アンケート「教職員の姿勢や言動は温かいか」：97.4% 「毅然とした厳しさがあるか」：89.7%
	◆教職員の協働体制 ◆その他	B	○定時退勤日の完全実施、長期休業中の学校閉庁、業務改善アンケートによる実態把握と改善ができた。 ※教職員アンケート「この学校で働くことにやりがいを感じるか」：肯定的回答100% ○「たきのやっ子応援団」による登下校の見守り、環境整備、ボランティア活動

4 総合的な学校関係者評価

○全体の評価が前年度よりもすごく良くなっていて素晴らしい。保護の信頼と期待がより強くなった結果だと思う。
○「子どもは学校での出来事を家に帰って報告し、保護者も子どもが充実した生活を送っていることに満足している」ことがアンケート結果からわかる。先生方のきめ細かな指導の成果といえる。

※「あいさつ」はとても大切なことなので、呼びかけを続けて欲しい。あいさつ一つで笑顔が増えると思う。
※朝ご飯の習慣、ネットの利用時間やルール、家庭学習などについては家庭と連携した取組が必要。学校・家庭のさらなる連携を期待する。
※小学校の体育館で、地域住民や老人会、保護者、先生、子ども達と一緒に交流イベントができたと思う。

5 評価項目に対しての学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
○学校の取組が保護者に変え評価されていて嬉しい。保護者の評価は相対的に前年に比べ上がっている。
※教職員評価が下がり傾向の項目を自分なりに分析すると、①コロナ禍で学校・教職員・保護者・地域が一体化する機会が減った、②コミスクとして運動会等の大きな行事でのバックアップが不足していた、③地域と教職員、教職員と保護者のコミュニケーション不足が理由として挙げられると思う。
※旧三谷校区に学校がないので、学校との一体化を築くのに物足りなさを感じる。三谷校区の方にコミスク委員をお願いするなど改善策を検討したい。

○「普段からよく学校の様子を電話連絡してもらっている」との保護者アンケートの結果からもわかるように、日々家庭との連携が図れている。家庭との連携がしっかり図れることで、子ども達も安心して過ごすことができています。
○市内の他の学校に比べ、かなり地域や保護者に情報を開示したり、学校に入りやすい雰囲気づくりに努めたりしていると感じる。保護者としては安心して子どもを預けやすい。
※中学校登校の回数をもっと増やしてみてもどうか。3回では少ないと感じる。中学校で不登校になると、高校・大学と将来が不安になると思う。

○スピーチコンテストの様子を参観したが、児童が楽しんで取り組んでいるのが印象的だった。英語力もかなり向上している。今後も建屋小学校ならではの取組をしっかりと継続してほしい。
○「休校中や自宅療養中にオンラインで授業等を行ってもらって良かった」との保護者意見があり、コロナ禍での学習指導がとても良くてきていた。
※コロナのための中止になっているオーストラリア(パース市)訪問・交流を、来年度はぜひ実現して欲しい。
※主体的に学ぶ姿勢、思考力・判断力・表現力に課題があるように思うので、保護者も子ども達と共に学ぶ時間をつくるとよいと思う。学ぶ楽しさを全員で共有できるといいと思う。
※自ら学習に取り組む態度については長年の課題である。家庭学習の時間を増やすことも大事だと思うので、家庭学習の進め方や環境づくりについて学校と保護者がともに学ぶ機会をもつてはどうか。

○「学校が楽しい」「勉強が楽しい」と答えた児童の割合が高く、学校の姿勢がすばらしいと感じる。
○「学校があまり楽しくない」「楽しくない」と回答する児童の少なさに驚いた。魅力ある学習活動を展開していただいている証拠だと思う。そういったことも保護者の信頼につながっている。
※学校が楽しくない子をゼロにしたい。また自分の良いところと言えないのは悲しいので、大人がもっとほめてあげたい。
※コロナの影響か、学力・体力の向上について教職員の評価が下がっている。体力向上については、朝のマラソンを取り入れるなど工夫されてはどうか。
※キャリア教育、へき地教育について、教職員評価がやや下がっている。先生型が自信をもって「良くできた」と評価できるようにして欲しい。

○いじめ事案に対して組織的対応がとられていることがすばらしい。
※いじめのない学校をつくって欲しい。困ったことがあればすぐに先生に話ができる関係をしっかりと築いて欲しい。家の人、先生ともに大人がしっかりと子どもの声に耳を傾けるべきだと思う。